

この答えを探すために

まずは私たちの住む「核兵器のある世界」について知ることから始めてみましょう。このリーフレットは、核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）と長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）が2013年から毎年作成している「世界の核弾頭データ」ポスターの2024年版を手がかりに、核兵器をめぐる世界の現状をわかりやすく解説しています。さらに詳しい情報を知りたい方は「デジタル解説：核兵器のことを考えよう」や「核弾頭データベース」で調べてみてください（裏面にQRコードがあります）。



核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）
長崎県、長崎市、長崎大学の三者による核兵器廃絶のための協議会。2012年の設立以来、市民向けの講演会の開催や、次世代を担う若者の人材育成に取り組んでいる。

**核兵器廃絶
長崎連絡協議会**
PCU-Nagasaki Council



長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）
核兵器廃絶の実現に向けた情報発信、研究・教育活動を専門とする世界にも例を見ないユニークな研究機関。2012年設立。



デジタル解説：核兵器のことを考えよう

⇒核兵器をめぐる世界の状況をわかりやすくQ&Aで解説しています。



RECNA 核弾頭データベース

⇒核保有9カ国それぞれの核戦力について詳しく掲載しています。



RECNA 核物質データベース

⇒核兵器の材料となる核物質が世界にどれくらい存在しているのかを解説しています。

お問い合わせ

核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

TEL：095-819-2252 / FAX：095-819-2165

みんなで考えよう。

核兵器のこと

読み解く！

世界の核弾頭データ

2024

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council



私たちにできることは
あるのでしょうか？

1945年8月9日、たった一発の原爆が長崎の街を破壊し、たくさんの命を奪いました。残された者も生涯続く苦しみを抱えることとなりました。このような歴史を繰り返してはならないとの思いを込めて、人々は「長崎を最後の被爆地に!」と訴えてきました。しかしそれから80年近くが経つ今も、世界から核兵器の脅威はなくなっていません。ロシアのウクライナ侵攻やガザ地区での戦闘など、核兵器の使用が現実の脅威として語られています。長崎が「最後の被爆地」でなくなる日は来てしまうのでしょうか？

-このリーフレットについて-

現役核弾頭数 と総数は どう違う？

核弾頭はその置かれた状態によって
3種類に分けられる

配備弾頭

「配備弾頭」は、その名前の通り、配備されていつでも使える状態にある核弾頭です。

予備弾頭

「予備弾頭」は、配備に備えて貯蔵されている核弾頭です。

退役・解体待ち弾頭

「退役・解体待ち弾頭」は、老朽化などにより不要とされた核弾頭です。冷戦時代に大量の核弾頭を作った米国とロシアにはこの「退役・解体待ち弾頭」が多くあります。

核弾頭とは？

核兵器の核爆発を起こす部分のことです。核弾頭と、それを搭載するミサイルなどを組み合わせたものを「核兵器」と呼びます。

現役核弾頭数

総数

現役核弾頭とは？

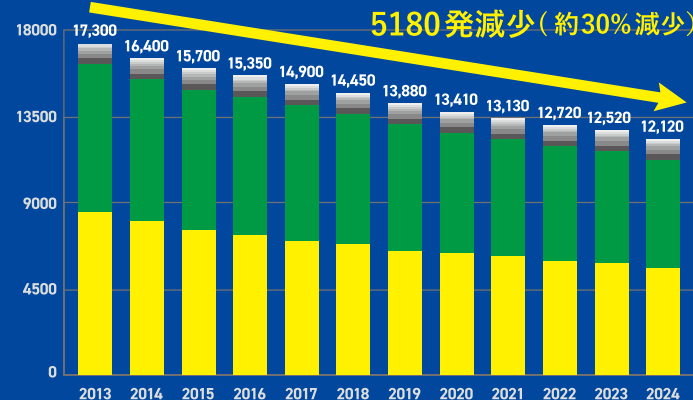
「配備弾頭」と「予備弾頭」の合計です。2024年6月現在、世界に存在する現役核弾頭数は推定 9,583 発です。

現役核弾頭と総数の関係

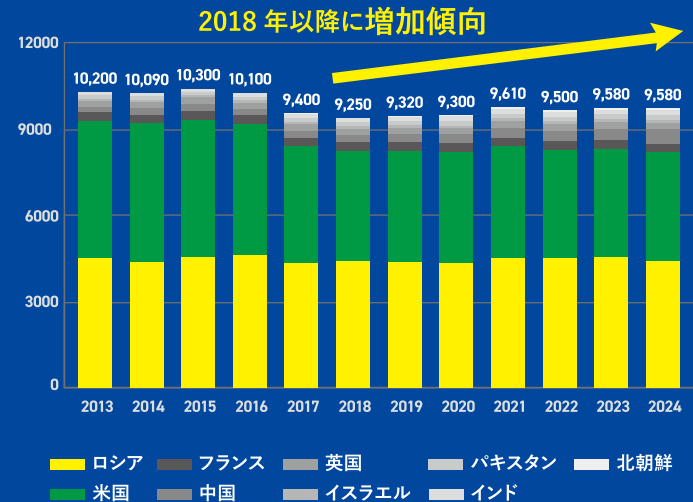
3種類の弾頭をすべて合わせた数が「総数」です。2024年6月現在、世界に存在する核弾頭の総数は推定 12,120 発です。「総数」から「退役・解体待ち弾頭数」を除いた数が「現役核弾頭数」となります。これが、「実際に現在使うことができる」弾頭の数と言えます。

「核軍拡が進んでいる」ってどういうこと？

核弾頭総数の推移 (2013-2024)



現役核弾頭数の推移 (2013-2024)



総数と現役核弾頭数の推移でみる核の今

ポスターが初めて登場した2013年から現在まで、「総数」では5千発以上が減っています。冷戦時代のピークは7万発近くもありました。

総数は減少しているが...

しかし「現役核弾頭数」に注目してその推移でみると、削減数は少なく、2018年以降は増加傾向にあります。さらに、問題は「数」だけではありません。核兵器を持つ国々は、老朽化した核兵器の最新鋭のものに更新していくと、莫大な予算を投じて「近代化計画」を進めています。最先端技術を使った新型核兵器の開発も加速しています。「質」の面でも「核軍拡が進んでいる」のです。

世界の現役核弾頭数 2024.6

ロシア

2018～24年の増減

↑34 0.8% 増加
現役核弾頭数 4,380

フランス

2018～24年の増減

→0 現役核弾頭数 290

パキスタン

2018～24年の増減

↑30 21% 増加
現役核弾頭数 170

イスラエル

2018～24年の増減

↑10 13% 増加
現役核弾頭数 90

中国

2018～24年の増減

↑260 108% 増加
現役核弾頭数 500

英国

2018～24年の増減

↑10 5% 増加
現役核弾頭数 225

北朝鮮

2018～24年の増減

↑35 233% 増加
現役核弾頭数 50

インド

2018～24年の増減

↑45 36% 増加
現役核弾頭数 170

米国

2018～24年の増減

↓92 2.4% 減少
現役核弾頭数 3,708

存在する限りは使われうる

9,583
(現役核弾頭数に退役・解体待ち弾頭数を加えた総数・12,120)

↑332 2018～24年6月現在

いま、核軍拡が進んでいる

どの国が増やしているの？

米国 と ロシア

2つの軍事大国

2024年現在、ロシア、米国、中国、フランス、英国、パキスタン、インド、イスラエル、北朝鮮の9カ国が核兵器保有国です。うち、米ロの2カ国が現役核弾頭数全体の約8割を保有しています。

ポスターは、2018年から24年までの各国の現役核弾頭増減数と、その増減率を示しています。北朝鮮、中国が最も高い増加率を示し、最大の核戦力を持つ米国に対抗する手段として、核軍拡を進めているのです。

存在する限りは使われうるってどういうこと？

核兵器廃絶が唯一の手段

核兵器の使用を防ぐことが急務です。各国間の対話を促し、軍備競争がこれ以上進んでいくのを止めていかなければなりません。私たちが忘れてはならないのは、核兵器が二度と使われないための唯一の保証は、核兵器廃絶であるということです。核兵器が存在する限り、事故の可能性を含め、使われる危険性は残ります。そして一旦核兵器が使われてしまったら、それは全人類の滅亡に繋がる核戦争へと拡大しうのです。

現役核弾頭数 の推移・国別 (2018-2024)

国名	2018	2024	増減数 (増減率)
ロシア	4346	4380	34(0.8%) 増加 ↑
米国	3800	3708	92(2.4%) 減少 ↓
中国	240	500	260(108%) 増加 ↑
フランス	290	290	0(増減なし) →
英国	215	225	10(5%) 増加 ↑
パキスタン	140	170	30(21%) 増加 ↑
インド	125	170	45(36%) 増加 ↑
イスラエル	80	90	10(13%) 増加 ↑
北朝鮮	15	50	35(233%) 増加 ↑
全体	9251	9583	332(3.6%) 増加 ↑

その米国は唯一、数を減らしていますが、「質」の面での核軍拡を着々と進めています。どの国も核兵器を手放す気はなく、これから先何十年も核兵器を持続けるために動いているのです。